

友だちの中で、自分の思いを表現しながらいきいきと活動する子

松本 都子

はじめに

服のスナップをはめることができない、友だちが手をひっぱった、自分にはできないと思っていることをするように誘われたなど、ほんのちょっとしたつまづきや嫌なことがあると大泣きして止まないH児。語彙数は豊富で言語理解力も高いのに、嫌なことや自分の思いを言葉で表現できず、どんどん落ち込み泣いていく。また泣くことで他へ嫌なことを知らせようとする。遊びといえば、一人で読書、ぬいぐるみとおしゃべり、鏡の中の自分とおしゃべりなど人との関わりを持たず、一人で空想の世界へと入ってしまう。そんなH児に友だちと遊んだり話をすることの楽しさを知らせたい、少しくらいつまづきや恐怖心を自分で克服していけるたくましさを育てたいという願いから、このテーマを設定した。以下、その取り組みの経過について述べる。

1. プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和56年9月22日生 10歳2か月 小学部4年生 女子 (第1子)。
- ・生後3日目で低血糖による酸欠。6か月検診で意欲が無いことを指摘される。3歳児検診で発達遅滞と診断される。集団に入れるとよいということで3歳よりT幼稚園に入る。
- ・幼稚園での生活は、受動的で萎縮したものであった。教室からほとんど出ない生活で、絶えず先生に手を引かれて行動していた。近所の子どもたちにも差別的な扱いをされていた。
- ・5歳の時、酸欠による後遺症の疑いで国立療養所西鳥取病院へ。そこで染色体異常 (第9番短腕部分欠損) と診断される。酸欠はこれが原因であろうとのこと。
- ・昭和63年4月本校小学部に入学。

(2) 諸検査による実態 (平成3年5月実施)

移動運動	手の運動	基本的な生活習慣	対人関係	発語	言語理解
4:4	4:0	4:8以上	3:0	4:4	4:8以上

表1 遠城寺式乳幼児分析的発達検査の結果

- ・遠城寺式検査では3歳～4歳8か月以上の発達を示す。
- ・表1図1より、運動、言語面に比べ対人関係における落ち込みが顕著である。
- ・MEPAより第5ステージ (調整運動ステージ) を充実させながら、6ステージ (知覚-運動ステージ) をねらっていける段階である。

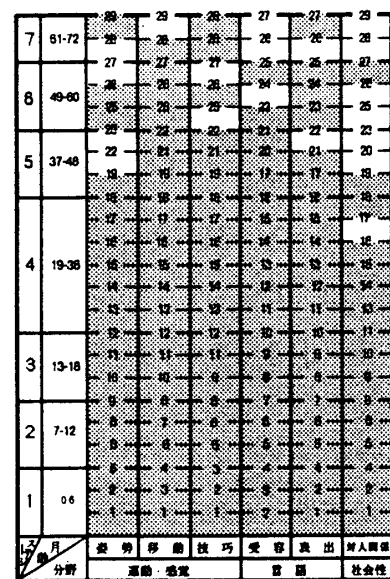


図1 MEPAプロフィール表

(3) 行動特性

- ・友だちに関わりを求めることが無く、自分一人の世界に入りこんで人の話を聞かないことがある。
- ・トイレやカセットテープなど特定の場所や物に対するこだわり（恐怖心）が強く、近寄れなかったり、耳鼻科検診などもこわがって受けられない。
- ・興味・関心が固定しており、好きな活動でない場合（塗る、貼る、切るなどの微細な動きを伴うもの）、集中できずすぐにやめてしまったり、いい加減にすませてしまう。反面、好きな活動（兎と遊ぶ、読書など）は、30分以上続けられる。

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

経験不足などから諸機能が未発達で、身のこなしにぎこちなさがみられるものの、H児はからだを動かすことが好きである。楽しくからだを動かす中で心は解放され、友だちと触れ合う楽しさを感じることができる。また、いろいろな動きを経験することで自信がつき、今までできないと信じ逃げていたことへも挑戦しようとする意欲がわき、そのことが体そのものをも作っていくことになる。即ちからだづくりを通して、少くらのつまづきや恐怖心を克服していくたくましさや、意欲的に取り組む態度を育てることができる。

(2) 指導方針

- ① いろいろな経験をさせるなかで、自分だけの世界から外へ外へと目を向けさせる。
- ② 興味・関心のある題材を授業に取り入れ、意欲的に取り組む態度を養うとともに、目標をしっかりと持たせた上で、苦手な作業に挑戦させ興味を広げていく。
- ③ 繰り返しの中で見通しや、自主性、自信を身につけていく。
- ④ 遊びそのものを教える場面を設け、その中で意図的に友だちとの関わりを増やす。

3. 指導の実際

(1) 興味・関心を広げ、表現力を高めた実践 ー学級園づくりー

5月 植物への関心はあるが、土を耕したり、草取りといった仕事を嫌がるH児。そこで **学級園に野菜畑を作ろう** と提案。

「どうもろこしでポップコーンパーティをしよう、トマトときゅうりのサラダ」など皆で話し合った。H児も「ポップコーンなの？」などと興味を示すが、いざ土を耕し苗植えとなると、たいくつそうに座り込み、かなりの励ましを要した。

6月 みるみるうちに成長する野菜。「トマト見てきていい？」
「トマトのこーんなに小さいのがなったよ」と、先生に話しかけてくるが増えた。 **図鑑で調べてみようか** の誘いに、



なすの苗を植えるH児

自由時間、図書室へ行くよう許可を求めにくるようになった。

7月 教生の先生を自分から誘って、学校農園まで行つては学級園の野菜の大きさと比べたりした。「こんな大きいのが」「ピヨーンとおひげがいっぱいのとうもろこし」などの表現で報告に来たりした。**学級で「トマト」の歌をうたう** 自分の目で見えてきたことをどんでん歌に入れ、替え歌を作るH児。ついには、7月中旬の合同宿泊の夜、歌発表で自分から手をあげ、トマトの歌を皆の前で堂々と発表した。



宿泊の夜、「トマト」の歌をうたうH児

(2) **みたて・つもり活動を取り入れた実践**—生活単元学習「水遊び」—
水遊びが大好きなH児。好きな活動を通して、友だちとの関わりを持たせたい、苦手なことやつまずきを克服していくたくましさを育てたいという願いから、次の様な実践を試みた。

アンパンマンになってバイキンマンをやっつけろ

自分から友だちに関わりを求めることがほとんど無いH児だが、みたて・つもり活動を取り入れた遊び活動（アンパンマンになったつもりになって、バイキンマンをやっつける）によって、自分から友



だちと関わりながら水遊びするH児。エーイといって撃ったり、意欲的に関わりを持とうとした。また、大好きな水遊びという目標があることで、うまく水着が着れない、タオルが巻けないというつまずきに泣かないで、言葉で「手伝って」と訴えることができるようになった。



タオルを腰に巻いて、水着に着替えるH児

(3) **苦手な活動に集中して取り組んだ実践**—生活単元学習「運動会」—

指先の力が弱く、微細な動きを伴う作業を苦手とし、すぐに飽きてやめてしまうH児。「自分のバナナを作って、運動会でおさるのかごや」をしようという目標をしっかりと持たせた上で、苦手とする作業に取り組ませた。

手だて	取り組みの様子
目標をしっかりと理解させる。 バナナを作って いるという雰囲気作りをする。	おいしいバナナの実をいっばいつめてあげるといって、丸まった綿を布袋につめる。丸まった綿がなくなると、自分で綿を丸めて作り続ける。途中、出来具合を確かめながら納得するまでつめていく。20分は集中して取り組み、一人で完成させた。



最後までバナナ作りをするH児

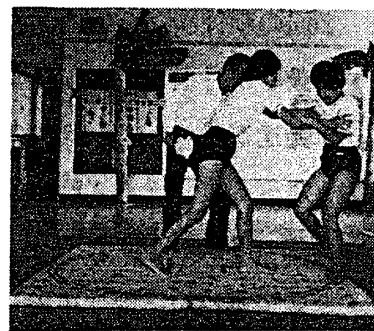
(4) 遊びそのものを教えることで、友だちとの関わりを増やした実践—なかよしタイム「すもう」—
 遊びの経験が非常に少なく、特に友だちとの関わりのある遊びの経験がほとんどないH児にとって
 遊びの楽しさを知らせるためには、遊びそのものを教えることが大切と考えた。以下に、なかよしタ
 イムにおける「すもう」の実践について述べる。

① 取り組みの様子

題 材	手 だ て	取 り 組 み の 様 子
〈一段階〉 歌遊びによ る身体表現	・まずは、自分の 感じ方で、楽し ませる。	・「ドッスンドッスンおすもうさん」で最後にジャンケンポンでおわる身体表現、 この段階は、友だちを意識しないで、全く一人の世界ですもうのジェスチャーを して楽しんでいる。
〈二段階〉 すもうビデオ 観戦	・すもうは相手の いるスポーツだ と意識づける。	・興味深そうに、ビデオを観る。おされて倒れる力士を見て、「オーヤヤヤ」と声 を出して表現する。この時、すもうは二人でするものであるということが分かっ た様子。この頃は、すもうをとっても相手と取り組まず一人で倒れてしまう。
〈三段階〉 塩づくり	・目的意識をもた せた上で取り組 ませる。	・すもうに使う塩づくりを皆でする。「すもうに使う」という目的があり、また新 聞紙ちぎりは毎日のそうじの時間でもしており慣れた活動でもあったため、集中 して取り組めた。(新聞紙を細かくちぎって塩を作る活動。)
〈四段階〉 すもうをと ろう。	・好きな身体表現 で気分を盛り上 げてから取り組 ませる。	・すもうのルールが大体わかり、「ようし、がんばるぞ」といって土俵に上がるよ うになる。相手に勝とうとして積極的に向かっていくことはまだないが、はっけ よーいのこつたで、相手に向かおうとする姿はみられるようになった。すもうが 好きになり、「運動会で何がしたい」と尋ねたところ、「すもうがとりたたい」と 答えた。

② 実践の結果

はじめは、一人ですもうの身体表現を楽しんでいたH児だが、実践
 を重ねるうちに相手を意識するようになり、すもう以外のなかよしタ
 イムの活動も、先生から離れて友だちと一緒に行動できるようになっ
 てきた。また、自由時間に、なかよしタイムで教わった「なべなべそ
 こぬけ」を、友だちと一緒にして遊ぶ姿もみられるようになった。



相手を意識しながら、
すもうをするH児

4. 今後の課題

学校生活全般において、笑顔が増え、友だちと一緒に行動する
 姿が見られるようになった。また、少しぐらいのつまずきや嫌な
 ことなら言葉で表現でき、耐えられ、以前に比べると少しはたく
 ましさも感じられるようになってきた。しかし、そのたくましさ
 は保護や配慮された中で発揮できるたくましさであり、真のたく
 ましさとはいえない。少しずつ保護や配慮を減らしていきながら、
 耐える力をあせらず大切に育てていくとともに、表現の基となる
 基礎学力の向上も図っていきたい。



笑顔で友だちと遊ぶH児